

経営比較分析表

山形県 尾花沢市

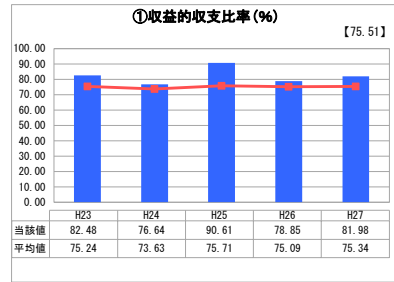
業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法非適用	水道事業	簡易水道事業	D2
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	36.74	4,320

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
17,432	372.53	46.79
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
6,343	249.43	25.43

グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 平成27年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



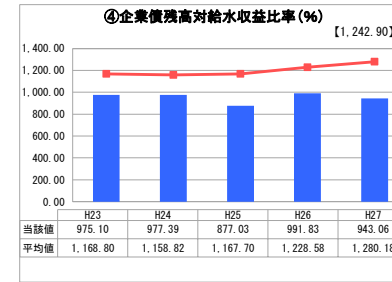
「単年度の収支」



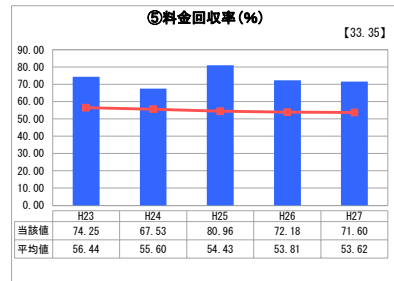
「累積欠損」



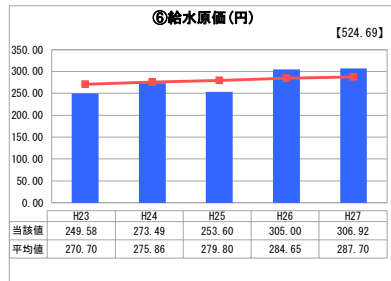
「支払能力」



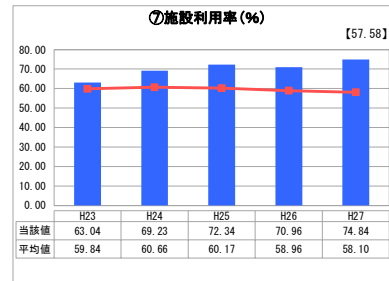
「債務残高」



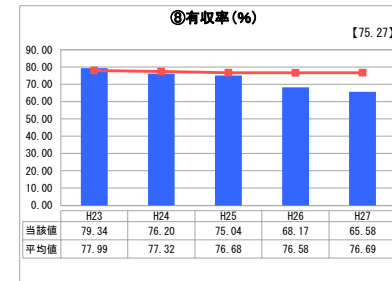
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」



「供給した配水量の効率性」

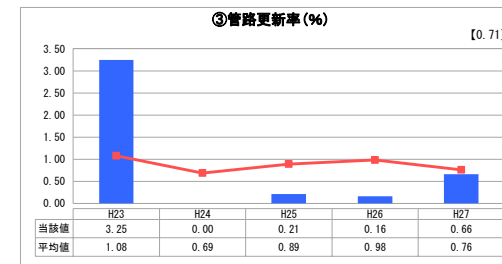
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

本市の簡易水道区域は、市総面積の2/3を占め広範囲に跨っている。当該区域は給水人口の減少により使用料収入が減少傾向にあること、集落が点在し配水管等の管路延長が長いことから、建設費や維持管理費が割高となっている。

また、施設や管路の老朽化による施設補修費や漏水修繕費の増加により厳しい経営環境にあることから、一般会計からの繰入金による補填を受けている状況である。

2. 老朽化の状況について

区域内の総管路延長119kmの内、老朽化した管路が約20km未更新となっている。漏水箇所の主な原因がこの老朽管であるため、順次、布設替えによる更新が必要であるが、工事費の節減を図るため、県・市道改良工事に伴う工事を主体に進めていることから更新延長が小幅となっている。

また、管路以外の施設についても高度経済成長期に整備されたものが残っており、維持管理費や補修費が割高になる傾向にある。

全体総括

引き続き、維持管理費の抑制に努めるほか、有収率の向上のため漏水箇所の早期発見・解消に配慮し、安心安全な水道水の供給継続と経営の健全化を目指す。

※ 平成23年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。